順德院御集

紫林和歌草　中

太政官文庫
和書門
一一六四九
九七
一三
三冊　函　架

内閣文庫
和書
一一六四九
三
二〇
一九
類　號　冊　函　架

内閣文庫
番號　和 11649
冊數　3 (2)
函號　201　338

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫
国立公文書館

神祇

ちくさ川ながきなつれの袖くらみ山田のうれ葉の村雨

賀茂やしろわかんつ三月のうれ花ゆけばうれ花ゆうれ西新そ川

同又月の合歓 当座

恋をまちてうれ花ゆうれ水もとゆゑ人の琴ゆうれ

人まれぬ月のうつせみのあかつれて志ゆうれ花よりのまち 橘

秋恋

おもふひとまちひとの姿なつれ雑ゆうれ物思ひ

これぬやいつのあんちもちぬまにくれまつれ志の秋そうれ

同七月の合当座 初秋雨

はるさめや青葉の森のもちくれなゐ　ひとつ花　青葉の夕

野草花

秋の花さくらんをのく野辺よりめぐる斗の袖のいろは

夕山風

青葉すこしあるに思ひし〻夕暮を衣ひなるに秋の山色

雨後月

秋の雨はよりの村雨に沼て梯山嵐よりはるるはつけ

霧中恋

いのちやあるのちはの夢ぞうつゝ夢もなりぬ分よ

同比当座　七夕

七夕の星ひの宮ぬれ衣きてとに秋の子を待ひく

山

屋〻雲もいまやこゝ指し山ちろに岩田とのよ秋風を

海

とみよりの浦より雲よ波わ日うるみ一のあら波山

同比歌合　当座　墓江月

ちめもきりたなまよ江のまようも特れなの緑よりとも春よの日

秋野虫

風の音雲はてとをしらみても野原に秋の松虫の彩

初冬雪

おはぐろ山いく世をへぬらん松の雪ふる神さび

宮雪

夏虫の身はいつくよりなりぬ也　雪まの松の根とう川風

閑中雑

山ひのよをとをみ雪もとをひもあり　ふる雨の音きく

同じ所閑流南殿詠　月前松　雪庭

今はまた世をとをぬる庭の松　ふるてそこゆる松の風も

同八月十八日　月前行

竹の葉よんうりむの松　月ふ武もやちも枝あり

同十六日乱　秋風

歩やまもしき衣ほうもとうしまのまひとへ　ふる松の風も

雁雪

小山田のかりほの菴乃庵　我家はの松のもとう雪

秋月

三尾ふみもやとりもとうもの　ちもてはとろ弘

秋雨

夏木のまれ下雪やりの　あん風よむまく松の村白

秋鹿

きりうえ　まる松風のこと　はても像をもる初雪の夕

秋虫

秋の野に尾花かるかち風のうへにかりかねの聲

秋鹿

月にむかひて鳴かけて鳴る鹿乃声すみ渡る時乃雲

雜花

神の斎へ乃ひまにさくらまして萩も秋風を吹

雜水

人くまぬいさ井の清水底をみ岩もいくよ秋をすぎ

秋霜

あさ乃霜ふりかかるをたく雲のさそひ乃風を吹

秋霧

行末を思へばかすかしし女ある神ある山の秋の夜乃月

秋猿

秋をまちそたくしみをとさそれ猿ひのくまに乃秋ゆ者

秋恋

たれ乃風もむかし乃秋の雲ひのかしも似ぬ人のこよ

雜懐

秋も雜月も雲井のそれなりし昔を今と思ひ出

雜雜

言ぬ世乃事よりもむへきまりや尾上乃雲乃夜そ

同状当座

かさりあれてきたりてはらはらとなるもれてあれはてたる秋の初色

月はそれ物はあはれあるはてをとはれぬ人のあるにつけ夜とのあ

詩四山ようそのあるまゝに敷よ者んれのあるもるきあれ風

又當座　冬柳

あれはてゝ枝ばかりの柳のみそれてきたりてあるもあれてあるもの

冬

雜波江の芦のうら枯に霜おれて枯ゆくまゝに月をあはれ

述懷

いつのなんいのちをなくさめてきのふもあるとは

同九月八日名所撰歌合　秋

月は海に金色の河の乃秋風よりの雲も立ちぬ物おき

さびしさをあらくまんのあるる浦漕船の江の月影

みなり野くまの花ゝ雲の夕附あるまとれるあるとは風ふる色

かりくんのいろ雲乃ちまゝ雲もとまるまゝ秋風

なるれりあるるや秋のとる淋川いてこひ浪ゝ岸吹ゝ

同比恋

さてもいるよおほ川のへのうる柳心の枝よ枯てやぬる

ちるこのゝ里ゝ人乃雲れ雪ちる紅葉の水も今ちるあり

同十二月七条院より内ゝ少将内侍の御人

ちるれ花をたまゝよのうちにくり河の

[illegible]

女房よりとて板よりの格子まえの色

雲のうへにうゑぬる秋の花ばかりてもあきの色

同十三夜會　月前風

[illegible]れつる村雲ちりて嵐をまちてやみの山ぞあらん

暮紅葉

秋ぞ[illegible]ぬる山の下紅葉たがゆふてらすあけぼのの[illegible]

寄海恋

濱ちどりいつかぬるいそ[illegible]ぬ[illegible]

同廿五日　月は雲客の合　野徑月

山のうへ[illegible]

霧中雁

夕霧やたれ[illegible]

寄雲恋

[illegible]

同九月廿五日　始の合　川落葉

[illegible]

寄雪恋

[illegible]

深山雨

[illegible]

同日人々[illegible]試験[illegible]雅部よみ侍[illegible]

出部定家　松浦晩風　一の淀宗

松浦川ゐせの淀乃名波よ[illegible]浦くゝの風の音の[illegible]

吉野名望　可相宗

[illegible]の川いとかゝりの初時雨とゝのゑもつ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

侍友猶秋

[illegible]

嶮岨ハ非山紙行平詠ハ天皇事也　弱山是池

[illegible]の[illegible]山[illegible]きみゆきの[illegible]

同比社[illegible]　當座

[illegible]

同冬歳庭　野雪

此比ハ野なる草木ハ[illegible]

歳暮

[illegible]

朝戀

わきあるとゝ我まくゝ社の家人の今宵やとゝん

夜戀

面影ハ月よりなつゝ社月影よかゝんをとれまゝこん

述懷

このゝやあゝにもうゝ世ゝ世ゝとゝ思ひさゝあめ社月影

自建保二年十月二日人丸影供始之毎月

旬日詠ゝ各三首也滿百号結願ゝ雖及

四年不交他作ゝ

時雨

冬こゝろ寂しけまゝの散られていく社めゝる時雨哉ん

ふる

かりゝゝのひゝゝとゝきゝゝもゝ社ゝゝもゝ雨ゝ雨ゝ哉ん

寒草

旅風よ河のへゝを吹ゝ序冬の草ゝゝゝゝゝ霜ゝ枯ゝ

暮山

ゝゝけて落葉も白山ゝゝゝゝひの山下風ゝ雨やさゝん

松風

ゝゝ吹ゝきゝ山ゝけ社の風時雨ぬゝの旅ゝゝ

曉海

友無千鳥河のゆくへのまよひをなほらひの思ひ

寄川恋

思ひのまゝ我身をうれの名ゝ川てとの塚すゝもかなしに

寄時恋

春日野枯草のまゝとひらかるゝ　雪消をまつ

寄霜恋

霜をうて袖と思へ世の中に我身も消ぬうれ

寄筆恋

年を経て名をやはりてとの筆の数きはの名ゝ

寄筆恋

うつもれ紙の涙乃むすきまをとはるまてひろ

寄笛恋

笛竹もよろへの風にのるものをうれ

山家

ひとるゝ思ひぬるゝ人めをつゝみさとも雪ふ

羇中

ふるの塚の時雨ぬるゝ里はも雪ふ

旅泊

沖津風あら磯波のうきまを月も旅寝と

冬暁月

[illegible]

山朝風

朝日さす桂乃と山の風よ氷をとる宇治の川もと

江雲蒙

第八れかされる江の雲乃葉よりもまつ[illegible]

池凍

冬乃池はみきはの氷ゆるして[illegible]

早梅

雪ふるもとゝ山ふもゆる花を其の梅として春の梅うえ

歳暮

いくとせ我身よりはる[illegible]

寄雲恋

月ふるゝ秋乃紅乃まつ[illegible]

寄笠恋

まつ浦やとけのゝ[illegible]

寄草恋

いすゝ乃の[illegible]

方遠

[illegible]

沐浴

[illegible]

閑談

[illegible]

建保三年正月十八日　山亭春

[illegible]

夕若菜

若菜摘む大宮人の袖の雪あやなん

[illegible]

春日野やあの日のれの雪まこにうれの春も袖をうるん

初春月

春ハまて[illegible]

[illegible]

[illegible]

谷残雪

谷ふかくたけのもとをいやうまれのそのもの

関路霞

[illegible]

春駒

かけろふの春日の野なれなれ駒もとめまぬん

春雪

春の夜乃月ゆゑ[illegible]の袖ゆゑ[illegible]落る春の雨

春野風

かすゝの野ハ[illegible]春日の下帯る野辺ゆゑ[illegible]風の音

宗落梅

[illegible]まゝきの[illegible]梅ゆゑ[illegible]の風の[illegible]

久春柳

久春[illegible]の[illegible]川ゆゑ[illegible]の[illegible]柳

[illegible]海辺

[illegible]ゆゑ[illegible]みて[illegible]辺ゆゑ[illegible]の[illegible]

久苗代

この比乃苗代ゆゑハ秋のけて久の風の[illegible]

朝堂葉

[illegible]ハ[illegible]咲[illegible]

初山花

花さのゝ[illegible]

[illegible]

里人の[illegible]山[illegible]乃[illegible]

谷春雪

谷川の岩間の浪をゆゑ[illegible]山の下風

[illegible]花

さくらめの山ちかくもあらぬ比乃花はまさく自人ぬるか

桃花

夕附日さしやぬ岩もとの桃の花宮もいろふかみけり

老梅

梅の声ひりうくらけるとの松すも春八梅ゝ咲みきり

歎冬

河風やいてさと波よちるものひうとしとふ山ゝ花

躑躅

ゆゝ〳〵咲山下水もりまのうれなるかふ見やゆらん

春雨

春雨やあり乃みなかみ乃ゆきもいとゝ波ゆ春の

惜花

春のくれも桜本の梅春雨ちりそめぬ時もおしむ常ゆ

藤花

ひかりの山ゝ春もあきらに今もさかん池の若波

三月尽

梅花ちりのまゝひ乃山見ゝ春ゆ桜春やけりん

更衣

白妙のひまゝる山の衣衣ゝ日ゝ春ゆ涼りられ

郭公

神あひの山ちかゆし時雨さつの桜の庵におる月哉

初花

ちらもるの初初花の立衣ゆとみゆる春の風

躑躅

百ぢやや濡士のくゆいなのうてはる梅の極哉

暁雪

ひのくらくむえの水乃けすりも暁なて雪の郭

夏草

夏草まへ志けるもゆくいめ〳〵の野中の清水かけるる

夏雨

さきへとる山田にうるさうの言〳〵雨まれたちて雨

葉月

ひさきおつるをちく波茅の夏の葉白きへ月出て夏く

夏風

夏ゆへ葉根う岸に蓋もりる蓋もりる秋の風

葛藤

夏月毎やまの毎のひのまり出狂ちくあやめ志ゆ濡の星

立秋

秋乃彩ち出風のちりゆ蓋

蟬

木のしたやよはくらきみちもたゝ夜かへしくる月もこそちらし

泉

むすふてふ岩井乃水の手に月涼しさ新に被なりけり

水鶏

月影は槙の戸さしもなけれとも叩くなる鶏なるらん

夏草

夏草の茂みをかけてたえしのまさ乃名にそ情なれ

夏夕

夕日さすむかひの山乃木陰より涼しくそ吹六月の空

夏暁

夏山の木かけふくれて清水よりむすふ手涼き夏の月

鵜川

うか火なきまたゝ河瀬に漕く舟をまつひの月はをちからし

夏山

涼しやと立よる山の下かけにむすひみるらん糸の糸

夏鶴

あひよりも夏の野への鶴かにそ夏草さそふ蜉蝣の夏衣

照射

ともしするはやましけ山しけきをかりわたる鹿の跡もなき

夕立

[illegible]

蚊遣火

大[illegible]氏乃[illegible]と[illegible]夕烟[illegible]

見立

源[illegible]の[illegible]の月[illegible]

夜雪

白雪もみ[illegible]

六月祓

門なみのいそに夏を[illegible]

寄雪祝

万代といふ[illegible]むろの山の[illegible]

山初梅

[illegible]

侍七夕

[illegible]

野径萩

[illegible]

池蓮

[illegible]の池乃[illegible]

関路庶

廉の声よいく度か神を祈りて数のさとりの同吉

女郎花

白露もおのれ置かぬ女郎花なのやなくなるまで袖をふりて

萩

多くの花咲きの枝を枝といいそん

樸花

神垣やそむくもの名のかいはみつけてもやそうん

刈萱

多の枝人のやうにあるの枝の春風よりさえの乱へり

夕月出

松虫の声をうらやむ野を宿りて

暁見月

秋のきぬの月乃山の端よりの枝の春ぬく吹風か

野外月

白露の野の村雨の人の極て宿りの月のうん

萩関廉

墨人乃月みる山のうとまて心をしらへ山男廉の数

関路風

月の秋の空乃川のうの風を光ありくる

庵上雲

百年なやむ秋まつきの白露をまてそこいつる秋の人

秋暁

寒かれて雲はなまれる暁の月やとりもこりしかり

夕

秋きてハむなしき庭の人れ来に寒きけしぬ人をまてかき

海歌

ふるさと山の月ハ雲ハ雲もまつ人ぬ松風をいとはもとまつ月ハと

結願

かつられりと秋ハ人をもりてこの世ハ人をてつりぬ小

同十一月十六日　松間雪

雪ハうちにつまとの紅葉の人ぬ冬こりせぬ庭の紅葉

建保三年正月十二日　鶴体仙齢

松はとも鶴のよりハ人のうへくらめもらんもちの所

同三月尚庭　夕花

ゆ人へき家ちもちに山桜ちりぬ夕暮れ家

春雨

春ハ雨乃ちりのちまさいくひ我身世にふるあめ

同四月尚家を　尚庭

ふまつる月にあれ花の白ゆきけぬ日そ

同春宮松祝　尚庭

百年やどの小松乃ちよ紫にもさしてそめぬ式の新色

同日謝諸寄帰雁を題

うつる雁雲ぬしなる一声をいとゝ山乃ち張の月

同日月前花

この花乃まりさとまりる月新に雪よりうへよ雪を数

同日月比夏よ或人のすゝとりとてけり

初夏文字ゝ句

此五字後日付く

さくらなのさしたる浦乃一ゆくゝ乃そひけるかをを

同比題不知

さりかたとと舞ゝ事を軒むかし我のこゝろ乃ふかさ

同文月於萩戸題座　文五月雨

ふく風よ萩の下葉乃名残よりとゝ夏の夕

暁窓

あつまの源も神よあられぬちりうゝ闇の月新

同比題座　毎中萩

萩乃露ゝ庭の秋乃あるよぬれてとなんあへの

鹿不知　深草寺

月まつとゝよいのゝ上よりぬれまの月てゝ乃ゝ成よ

此句ハ題不知　毎中

お庭ゝの鹿と書くゝ下めぬ事多可ゝ

同比歌　當座

[illegible]

[illegible]

同六月六日合歌座　蛍狩ノ題

[illegible]

[illegible]

同比題合歌座　夜野風

[illegible]

吹風もむしろふきのあるまるよ[illegible]

深夜恋

[illegible]

寄海雑

[illegible]

同比歌座　山廉

[illegible]

社頭

[illegible]

同比歌座　寄[illegible]恋

同比叡山麓下題各詠之當座

暁月入窓

うらさびしいかにあらまきれやうそうこの月の光ありけりう

早涼思衣

月こそはもとの衣にあらねども秋とまるひとへなる風そ分るしむ

同六月十八日三の合　名色柳

川なみよ風のつきそく白雪や浦〳〵ぬきとあぬむのまやみき

江上嘉

難波江の塩干のうらやとむ人芦陰〳〵まとをあまのいさ

朝蓮花

入るうやはうらいうとうみ山風のうてそうらえれ作外

秋帰雁

うらの秋入り出もみくぬ山の霧よれいうとひの雲の秋の月

山暁風

風さうき松よりれうる時の雲紅葉山の夕あううん

野暁月

きうわうう野うきのかり菴の名とあうあそぬる秋の月そ

同海月　賞座

みそきりとうやあさそのぬれうう家をけうる秋の月

同七月七日　七夕首

天川てる月なみをうちこえて今宵こそ秋の初あひのそら
秋はなをあさせもとゝ波たちもて雲之海つかてき新橋
七夕の行あひ空やあらんゝ浮しき天の川舟
年ふまれて雲はさてもてる月あんゝ行きをいそ思うん
秋来てもあつをはなの紅七夕よりつゝいと乱あとそきん
たゝこゝろ乱をなくき秋のしも思ひてあへぬ星乱空
天川みちの橋乃うゝ錦ゝ乱と絶ぬ舟とそ渡し

同月　当座　山路夕雨

かりゝ秋のきこゆゝ空へみとりて夕さひしき山のト雨

秋萩花

萩乃夢けさもゆあへぬ紅ゝもいろゝあやゆ風ゝうん

又　当座　秋

姫乃月乱ゝかのゝ山のそよゝ月ゝ空ゝの秋時雨り

同八月海上眺望　当座

うゝの原雲吹ゝ風とゝ波ゝ風とゝ浦乱友秋

姫なのゝ乱ゝ乱ゝ乱ゝ乱ゝ乱ゝ乱ゝ乱ゝ乱ゝ乱ゝ乱ゝ

同比　当座　樹雨衣

ゆゝもゝゝゝゝ星人のかゝゝ衣ゝゝ花ゝ乱ゝゝ

月

萩のうへの人のこゝろをよみて侍る秋の末つ方風はげしく月新

同はつ山夜月明るとゝ〳〵る詩題をよみて書屋

ひのくれぬるまゝに山のこゝろをよみて侍る

同八月十五夜月前行風

天津風雲の路の末乃方代よりあつまりて秋の月を

月前擣衣

嵐吹くゆふべの月のこゝろをよみて侍る

月前眺望

めぐりあふ山の末葉を染めぬれば月の時雨ぞもるゝ

同萩書屋　林庭虫

雨中恋

いとゝなを物思ふ秋の雨なれば袖とはやはかはるらん

同廿一日寄合書屋　山家月

初瀬山門さしくる萩のうへよりはるかに月の出

夕紅葉

時雨ふりつる山の夕紅葉時雨も知らぬ色のあるかな

同廿三日書屋　恋

嵐乃末ふきつる松のこゑ羽白雲の雪かとぞみる

夏

とゝきぬあり浪のうちゝ乃時もまゝとゝき秋月の光よ

秋の夜を月のみもちまり急へ人も住の〳〵家ゝ忘れなるゝん

雜

山乃端よりの月も都ゝ忘れこゝろ乃やゝ乃の光なるゝん

又待月　嘉産

山のゝ端乃月八半の面とい浦ゝ心なるゝん

同七月廿一日有心無心作者ゝ会ゝ

まつゝ浦よ　草花繪屏　嘉産

さをゝ乃月野ゝ人の唐帰校よ一むら秋風そゝく

小男鹿の涙ゝ秋ゝ世ゝ萩の下葉も色ゝ

田家秋居

風ゝ乃ゝ梅のゝ竜ゝ秋ゝ〳〵と指葉をわゝ乃ゝ

門田ゝ乃ゝ稲ゝ秋風ゝ吹ゝ乃ゝ初穂の数ゝ

同八月嘉産　野亭月

秋ゝて乃ゝ月ゝ竜乃ゝ乃ゝ面ゝ月をゝ乃ゝん

川暁風

秋田川ゝ上ゝ吹ゝ乃ゝ秋の山ゝ乃ゝ秋風ゝ

野外夏景

秋ゝ乃ゝ夜野の草のぬれ衣なゝゝ乃ゝ乃ゝ

月夜似秋

風の吉分うむ夜いうら稼と自よりて家林を行ん

契經年意

清まつれていく秋風を契きぬきさ山路のまつと世に

同九月九日撰之合歌座　月前菊

久うしれ雲のの庵よ咲菊の月乃雲にのあ宮まつ稼の

水色菊

白菊れ菊のあ宮ちよ移ぬ雲ぬけよ雲ハ絶ぬ

寄菊雑

心あてよおりうしうやしうの乃須ひまけう白菊れ花

同十月十六日菊下會菊合後教本殖萩

戸前月照菊く興人く詠三首　慶管絃

うつ〳〵てみきれ菊乃初霜ハ枝ハたつの月そうつ

天清星光をうつもをみうちぬ老せぬ菊のうけやせうくらん

花こつちよまつ時も法人の雅をうあ庵の白菊

同比雪　慶座

雪れうる山路へうつ九ぬ雪ぬりぬる野人のう人

同九月比慶座　杜鵑雪

白うう〳〵の海やうそ八あまるん林というの杜れ下風

深秋出

虫の音もふけぬる秋乃おもひをそへて猶まさる松の風

月前望

猶ふもそれとなき秋の夜も月にぬるゝ袂なりけり

寄海恋

志らぬ人に心をおきつ川波かゝる斗なる恨ありとも

寄鳥恋

鶯は音はなきて此年もまたぬ身の袖の色まさる恋

寄夕恋

志らぬ夜の夢もあはまし契ぬれいとゞ恨みの夕暮の空

同十月比雅経卿東國のくだりし浦のほとりにて

下より女房中へやりける

志られまじ程は雲井を隔つとも遠の通ひ路をかよふ

返し 女房みのうちにて

めぐりこん程は何ともなきをも雲井をへだてゝ

同十月廿四日名取百首人々つかうまつりしとき

音羽川

音羽川山下や雲の越つらん世にしられて落る雪もみ

玉嶋川

玉嶋や川瀬の波の音かへて夜な〳〵みがく月の影

高砂

浪まさりて久日うれる言葉の松乃子の葉八かを海さかり

春日野

春日野もそのやよひは花乃上濃しくんぬ詠をるん

三笠山

花は咲よなを地りもそめぬかそ〜ふるもの松乃春の景色夕

葛城山

名をそ葛城のかくる春柳の言葉山の春毎は宮

手向山

白ぬよなひきにそしゆみ乃山よ花もちらん

伊勢海

いせ乃海ちもむ塩干はてかくるもの乃ゆ

志賀浦

さ波や志乃乃浦風吹まくに歩を出る春のもれ

三島江

乃〜まにやなを紅さに志乃む松乃葉の名より浦き春の新

塩竈浦

雲は乃ゆ塩乃波いそれ乃ゆ月春の塩乃浦

宇津山

ちそ乃ゆ乃ゆ津の山春よ乃ゆ乃ゆ乃ゆ

芦屋里

芦の屋乃なれし仮屋の波風をたちかねしまはさひしき

吹上濱

冬もなをふきあげの浜乃些志ら縁よりひく沖津白波

湯等三崎

摂崎山よそに来し里由良のみさきの晴るゝ空

忍山

桜も花ちるよあらぬみちのくのしのぶの山も春風の色

水無瀬川

こゝろおでいかぬ色やまれ世川乃よし野の山吹乃花

大淀浦

おほよどの浦ちかげとげの山の月に露ぞおける松のむらさき

田蓑浦

ぬれてきこえてやおもはん田蓑の浦乃底まで千鳥なく風ぞふく

末松山

三月とやまの末の山末の色よ今一かたの浪ハ越える

文殊
大井川

大井河さゆきてみれば入江の松よ家もなし

信太杜

風の音も嵐の色もやいつしかの杜八千枝の杜も

猪名野

風ころゐなれてをきて手折なれまきれぬ白菊の花

紫雲耀川

夜風寒き漂ふ川の秋風やふもとも川音あるゝ月影

伊香保沼

河こもる沼の沼のいつ年浪越ぬる人まつ月影のさ

天香久山

白妙に衣ほしてふ夏来月乃宿まで見るゝ天のかく山

大江山

大江山きりの下にやまうても人まよふ澄るゝ越のわ

難波江

なにはえの芦火焚屋の煙立つ夕日涼しきこゝろ風

義豆沙牧

刈てほすこの川のみまきの夜半へ露にかるゝ駒も　まさあれ

松浦山

夜山やまつらの沖の西の海そよぐその風に秋さらん浦

秋紅 初瀬山

はつせ山錦見えはやくも錦の声ちかく秋見ん錦秋の東　よみ人

立田山

龍田山紅葉吹きて秋風に落ちて見つくる松乃声の春

須广浦

[illegible]の浦あまの[illegible]の月

文雄

[illegible]やまたく萩の葉ふきわたる夕べの風

[illegible]

[illegible]

小倉山

をぐら山峯たち木ずえまきなれて時雨せぬ秋もぬるる袖かな

宇治山

[illegible]八十うぢ川のさわやかに澄みてすごしの月

岩船山

秋ぞとも雁なく[illegible]雁来れば[illegible]の村雨[illegible]

三室山

[illegible]山[illegible]のいのきりふき[illegible]の夕風

[illegible]園山

たつたの野[illegible]の風[illegible]

伊駒山

いこま山雲ぢ[illegible]秋の月[illegible]

生駒池

[illegible]

清見関

きよのみち国吹とある秋風よりやまさるらんまた狩衣

武蔵野

みちなる草にひとりのわらはもあらむと山茶

伊吹山

むらさいろのふの山乃秋の雲たゝ年も新を松むしの音

佐良科里

さゝなみ乃ゆくすゑ長き里人もなくさめかねて衣打也

白川関

たちあらぬ新関清き白川の関

野路玉川

とをとあらぬ玉川さらぬ野路の秋乃夕雲

明石浦

明石浦の月乃光乃輝るも清しそらの秋の雲月

武隈川

ひのもとにまのゝあまの浦川のきよみよはるの秋乃多ゆらん

冬紅 清澄川

清澄や岩間よりとむ冬川乃うへハ氷よりむすぶ厚氷

小塩山

をしほ山松ハ葉とうる夕雲よ文ゝ秋ゝ雲ハ陰

住吉浦

但馬の松乃あしやうらん松ヶ波の百数のまさるも

片野

夕くれのくれはとる紫むらくとまさひとなる初雪乃宮

田蓑嶋

雨よりたみの嶋乃あよ衣さてハぬれぬ冬の秋くれ

弓乳山

冬の来乃雪乃あしやさ乳山乃よりかさ野ちのあさ

浦嶋原

浦ちぬ山ハ雪ちもれ乃ちるの月浦嶋乃松

安達原

雪ハきさあくちもれのゆちり雪て跡ちぬ笑ハ行ちむ

因幡山

雪乃ちに冬ハあちもれの松つるよりみちぬ名ちも

猪山

行とかくみの山乃冬乃月ちる新さ今よくりあきか

伏見里

ちのつくやうみの雪乃さ松笑もいくよ乃人ゆくらん

霜浦

かのうにもちくせてくれあつまなる霜の浦乃あはの

石瀬杜

弥なひのいとせ山森の初時ゆきのひゝゑ山ゆ風そゝく

筑波山

ゆくゝもゝ山ゆきのゆきもよゝ紅乃数よりまさるゆゝ人のこゝろ

袖浦

袖乃浦の波ゆ花ゝもゝきいろゝ枯ゆゝ色ゆく

益田池

思ひのこゝ海と田の池乃ゝ水ゝ枯ゆゝ人ゝぬあやめ乃根よ恋

弓師濱

沖津波たゝのゝ海乃杉ゆなをぬゝ社ゆゝ

阿波手杜

ゝゝの色ゆあゝての葉ゆ文のゝ人ゝそゝ孫乃ゝ世ゆ

志賀須香渡

かゝゝゆゝ蛍ゆる秋ゆゝゝのゝ人ゝのゝ紅葉ゝ

演名橋

ゝるゝゝゆゝ海ゝ社ゝ乃緑ゝゝゆ行ゝ社ゝ紅葉

濱名浦

かゝゝ濱名ゝ浦ゝ海ゝ社ゝ浦ゝ

守山

時雨ゆゝゝゝ山佐の下葉ゝ人ゆ袖ゝ乃神ゝ文ゝゝ

佐野舟橋

かけてうに物し中へ行をつ見ひをきてぬさ手向

安積沼

人心あさ井沼乃うち水くみ井ん

松嶋

あまとまる苫屋の煙ゆ月まれぬ海ひ

緒都橋

あつまちもとくこえ井ちもいつ和といつ行行和とうる

三穂野浦

みくまの浦より出よ立波のうれぬ見ひを物やてん

鳴海浦

ふ我ちにのこなるみの浦ゆ夕塩うへのそにもいそ物まん

二見浦

おくつ出ぬこみの浦乃名ちよ時そ波ぬ春ちうう

名元川

をちうる物る浪をけうのあ元川世物あへぬ神ハ歌ゆ

難波

芦野川

吉野川あくき浦もなく物水の人乃心うへを浦ぬ元

佐麻川

底清きけうる河乃果ぬ世ぬ波のまれく時ちうたのそそう

不尽山

姫の森よりはそとも為て立橋を過人もなかれぬるん

還山

新人多き山路八行てぬさひもとるぬ社の文きを

海橋立

若の浦ていくせく来てもるるん社風をみて天のうて立

龍宮川

何をこの川ぞ世乃渡よ吹風のいてるにのこ行厚日ル

鳥羽

年つもる松もひのに山もとの乃とそよ何ひるん毎の古を

辰市

たまひめ社ぬくの民乃市にうれを埋る数もみくり

吹飯浦

芦乃ゝり塩みちてし天津風まをの濱よりそ吹なる

布引滝

たちぬる紅葉の社衣濡そて伊山姫の布引の滝

長柄橋

いまへよ何ひなのこ社ぬりみ行をものうひも

玉川里

白ゝこ手風よみの寄る光のとにとある玉川の里

生浦

ちる浪の長月の秋の末の浦風今も吹しを
佐夜中山
さよ乃ゝ山さやの中山吹風よりそれ秋の紅葉もむしの
曉峨野
かりゝの山の夕夜の月もいつの秋のさらに宮の白雪
南四川
こゝろひとつに宿かりゝんいほさゝの原の秋の月
餘摩市
草も木もさゝ分ぬやのきゝの雨のかちしも袖のかゝりん
若浦

和の乃浦やさゝ分うちゝ浦のもゝ浦のもゝ浦
ちゝん
逢坂関
さゝ山さゝ山もゝ逢坂の関ゝ山に新ゝ
三津濱
こゝのゝ浦風ゝ浪ゝ月ゝ見ゝ月ゝ松の秋の
建保四年十月十九日　松延春新
をの松の年ゝ月ゝ日ゝ入ゝ月ゝ
前右大臣公継見此會返上時女房行人
かゝみもゝのみゝとゝ
をゝ山ゝ

うまてしさを神よつまんむかしたての葉よりそ見えそひ
同比實氏つうめ梅花を詠うしし
上さを我他り事ありて次郎兵衛花経
ういまる六位は伯まうひとへ中まり
こやしても一ようや花をつてくんさそうれも見れ行春よ
さきひろん春の梅くるとおもひしをやーうまる花は梅
其後又遅ざ咲る春枯事仍不能沼至
うれやさい我方にとゆう其形んをかより後れ咲ふるこも
三月十又日比関く進小野宮く詩歌合

春朝雨
吹ざ雨うつさを花風乃花の雪よりもうつ多紅葉
社以春
このひいまうゆうて繁ちーを四の花の梅の
同比春
後雪ふい沼を花とまきるつる雨うりの雪の梅の
春風よちりうやうれぬん花より西乃山のそれ月
又
又月夜花乃ちれのそ沼えてーはうる雨の梅まて
乃を花川夜の梅くを花水をやかけしさまりぬ三月

湖上月

志賀の浦や秋しく月のさえまさりさゝ浪の音は

杜間月

神なびのもりの木葉は志らねともいてゝかつみる秋の夜

四家月

秋田もるかり庵の苫やくれぬらし月にぬれたる露のさむしろ

同比二百首和歌

続千 春三の十四首 立春

あらたまの年のはしめに山かつも霞をわけて春はきにけり

初春のちの緑の千代の百千鳥鳴緑たなる鶴のまみれ

さほ姫の衣もかすみしよりこのめも春のはるかにそむら

春は野辺やまさへ霞わたるなる風よりさそふ野辺の梅原

わたる山やおちかた緑もまさりて人もとめぬ春風のひとそ

いはもきく人ぬの瀧の音まても思ひはて春の鶯

続千二首 落

ふる山のなかなる吹風の音もさそはれ夜は花にちる

蝶乃そらをとぶ桜かさねの手もとに花なれ

ちりのこるものゝあはれもあさからぬ心のうちはまたも

みよ雨つゝ花月よりもさそはれてけふはちりぬる

ちらぬまや春の池水のにほふ小笹の夜の花の月

あかしみゝ根の峯の時鳥夜のむしのまさる

夕暮の風かけ手の庭も月の梢も聞ゆる鳴なり

小山田乃さゝ[illegible]
山里のそゝもの秋と吹風よ夕日淋しき日くれの秋ノ
夕日あれたるはもまさきよりやとひもある高野の日
蛍とも野原のけ乃だなまいも清のよとにかるさとめ
玉柳乃けはもむしろのうとれ水やとうとう人ゝ出るゝ秋も
うりはるたゝまれ山のうつりそうにをのきもてもあいん
秋十二首詠
国さもひきさゝるの月よ秋とゝまて衣うつり生の里人
秋もやとにけりとおもひ四うりもと行よ秋て来ん
山風よりひくけさらゝ雪うれて来ゝにある里の秋の
ちくれけものの来れ秋風をゝそゝもあされのよるか
柳とうけとゝんゝとなゝ[illegible]
とゝゝもうもきくに秋のたゝ山ゝをゝみゝけあるをゝ
ゝ月乃とゝうけ山ゝをつしよ紅葉なゝうゝよゝうゝ
らひくゝみゝうゝ秋もゝまゝ関のゝゝゝれゝ言の
来時ゝ屋まゝとゝあゝぬゝ国の虎ゝを野ゝもゝ
みきていあゝうれゝゝん芦の来ゝゝれて来ゝ
大野門ゝゝと代のゝゝゝゝゝもゝれゝとゝ来れ紅葉
冬ゝゝゝり尾花ゝゝもゝうれゝもゝ秋の高ゝゝは
ゝ砂れ尾上の月やゝけぬゝん川言ゝゝみてゝゝ鳴ゝ
山里乃まゝのきのゝきゝ来ゝれゝをゝゝ斗ゝ風ゝたゝ

とひのまに宮うい面と きく程よあ〜まにさらし曉はな
略れ物かう四れ面ハこ浦ゟ
みうれ〜嵐そ宮〜ちゟなる行のとん雪ゟやゟ里の雪
よの山いりゟ人の雪ゟまも絶て久しき雪れのうひち
百姿や雪衆の月乃新宮そて庭天も四ゟ山あひの社
茅枯の入江乃ゟかゟぬ上しまゟの雪れ松そひく松き
ゟのき衆乃雪の月やさえぬん雪のわ雪かさ行のし
冬れ色ゟれも月ぬさ梅の猿こ浦ゟゟる言や
あゟのき屋れ本宮ふをみ上ゟ浦りてゟき年れ
月の雪ハさ浦ぬゟのゟ雪の松れもあて浦やさん

と知ハ雪もをゟうんゟも四雪れむ乃をゟうれ行ゟあ久
月さとゟるあ〜猿波ゟゟ松ゟゟみて雪も浦
行ものさう〜入江の水ゟり江方をゟ宮れ行ゟる
今夜ゟ人やハる江と浦〜ゟ行ゟ下れも夢ゟ行ゟき
人心のきさにゟ〜かけゟ行れ文書ゟて行のゟゟん
ゟ色事ハいか人の浦れ月弁茅ゟふゟやゟひん社ゟ河
松〜山のゟをみゟれの橋花ゟ雪ゟぬ人ゟ言やゟゟん
さるまとゟと四毎ん人ゟなのゟ人てあ〜ゟ色歌を分て新行
四ひ色ゟゟれ月雪も雪ゟゟ松りかゟゟれ雪歌ゟ
四ひあゟ本業の下乃古水ゟ浦ゟ後ゟ行ゟも

侍と思ひなすにも和むかたうきをもあはれに心なりそと
よしさらばかの海の山の秋の雲をもとゝのへかねてふるうん
今の又思ひ侍へきの雲をもとゝのへかねてふるうん
我神やわかのうけなる秋の雲あれよりへいはまきあるよりうん
をもの八いせもあれあまのいとなみいるる海もあはれをき
男山むしろせのまいりきぬをもの梅あれともはるよ
里人のこゝは文野よりうるはれきあくみをよあれけく
月代家の松乃あしやの旅人のゆに相思ふつまとゆん
こゝひ神てゆるの神やゆるん時ゆれ乃家れをもを
ゆるをもの家やうゝ雪をもとれてをうゝ人の数をみより

山の乃舟れあみ戸のひまをこのゝみゆくもゆのうれとあの月新
うゝをきやゆのうき巣のいみてをもとゝへをうゝ世を新らん
ゆうれなうと紙山うるのいうりう家の烟れうのようをも
中くよをうゝ人やあるゝん山乃うれ月新
をを海乃浦やあまれ をを入ようゆうもをれ山の文小
ゆるうゝ浪ちをうれ家まれ人へをれ月新あまのうゝあ
いくたひををくゝ穴の猪乃ををにゝのうれぬをゆのあ
百姓やうゝき新ちの志のゝもな紙あまりあゝ雪ありゝり
をれ月の民の海れ乃ゝものとけき家紙人をまれ
雪乃うちにをやゝうちにあゝもの年をゝ海ゝ山風をく

[illegible]山のとけき空のひかりにやあらんうち霞人
風吹へ雲はらきて木蔭晴て空よりわたる雪のあと雪
若くさめわる野辺のくさみやあらぬ雪はるかつもん
雪はあらそふ浪のよせかへる梅のもとに風
うとみりあるくのあり乃うすき雪の数きゆるかの雪の跡
たりせさせ梅乃川なみ立にけり山のあめも春風そ吹
いろかへん人のこころもとみとりはあらの浦乃雪の白なの
梅咲ぬ雪へのあはれ減みとり花なひとへのもむ比の郭
うつしれつるき花の梅へうん人乃むりあるとも
雪といへへ花の咲ぬるあひうん事も人のあるこ

[illegible]風となりにけるうんくひとものそのきそ花こそ
続千
なのくとのり山の梅花のりの海る雪とそ見るあ
うきまつる御梅のうみきれのものと化なるひりん
雪花とみの梅よ咲まるて嵐よ海る山川の水
大うるはあけなのとしもあるうちうる山のはくはは雪のきし
紅もの抜こもとなくうろひぬやまのこの世の花のこうこ
夕日うにもしのひの雪乃岩はしうろ雪やうれある
山のき梅つきまく風の雪乃花のまきれは春やりうん
もろ人の花のうりとへるこるとも衣へうき梅とやかはりあ
夏衣きるれの雪乃時るうんそやはきて年はるこ

玉川乃里ニて秋ニ成ぬ月ハあれや卯花さけるなつ山ハ
河のみよ孫さゝとまつ人ぬるゝ袖のうき分ニ成て龍田ハ
時雨かゝれぬ乃あく秋ハやをのゝうへの夏よりもん
夜引のをひきれいとれやりゝ風もさゝぬ蛍の羽衣
うゝ夫の爆つゝ紅葉ハ孫くゝ宿の月のけ
池水乃ゝ氷のうき禁にゝゝて夕ゝれちゝく鳴蛙ゝ
夕月夜ゝりゝとひまもなるまのゝまゝ蛍も浪ぬ地
月ゝれもゝのいたゝよゝ夏のゝゝあやゝ一曙の空
早苗ゝゝたゝのゝゝそのぬき衣日も夕風や涼ゝゝん
夏山の月ゝやゝゝゝゝ時雨ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

夕月夜ゝも涼ゝき松ゝけ乃浪ゝゝのひゝゝゝ
ゝひゝゝもゝゝや孫ゝあゝん時雨ゝゝゝゝ月ハゝゝゝ
秋やいまゝれゝゝゝ夏ゝれ夕ゝれ浪の花の時ゝゝゝと
けさゝりや秋ゝゝゝゝ夏ゝ来もあるゝ人の袂ゝ衣秋風そゝ立
初乃ゝも夕月よりくゝる秋風をゝゝゝゝゝあゝれゝゝあ
吹むゝゝゝゝ秋風の音ゝゝゝゝゝゝゝゝ松虫の色
むゝ一ゝの萩乃ゝゝ秋風よゝ夏ゝれ袂やゝゝゝゝ
ゝけきつゝ秋ゝ袂の袂ゝ白ゝゝゝ神ゝゝゝゝゝ月夕ゝ
大ゝれゝゝゝれゝ月ハやゝれゝゝゝゝゝ秋の池水
女郎花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ秋

立田山さしてハきゐの夕月も霧かくれゆく秋の夜の月

露ハなお秋に雅なるしにあらし吹秋を驚の色乃ことさら

夕つく日さしもや思への庵まてなひく田のもの薄高穂

あさ山の峯の紅葉も木や志あるらん月ハ冬そに嵐吹ぬるも

色高みなきりも志り時雨夕りしのさ紅葉乃秋の夕風

奈ハの影も氷をとつれて冴ゆるまつ旅の月影

志くれけりまゆこの峯も紅葉たゝのしぬ木の枯嵐そ吹

秋わきぬるの木葉散りこる嵐よ落る鐘や此月影

旅風ハ桐の一葉に音信て様もなしき村時雨ぞ

山人の日も夕くれは志とゆふかへさの声ハまや深らん

紅葉ばの名こりをしさあらしふく峯の紅月もかれぬらん

音羽川秋せく岩のしからみハやまずとも山の木葉や夕はらり

紅葉をぬさに手向の山風の月影さえぬ秋の暮哉

冬きてハ時雨ぞいとゞ深からし木葉よりこそ冬ハみゆ霜を

玉霰もなき白菊の花ハいかなる冬ようりうつろへるらん

いの斗蓁の里乃しくるらん高山うらくかゝるもみぢ葉

水鳥のたゝのまとりやねらんゆふ霜むすぶれの河の上陰

こやまより時雨ハさそて村紅に日影なかみのかげに秋風

弱きハくからものその夕風に鳥立はくもの音なき

ちる雪ハ河瀬ゆきと波乃ほかの芦屋の池に音なきを

就人のけりける淀かうき庭に雪たへ積て後乃冬とハあくとも
萩やさむきさよれあらり乃冬の月さへとありし跡ハ露にうき川
きくれかうし海かきあけれのとくり良も残なり参れ月影
影きよ紀月乃後の池水こほりもあへぬ霜ハ涙川く
山川の氷もうすきるの雨よむかくつるさ朔乃初雪
降つる雪れあしての山里ハ鳥もまさりにまさりてゆかし
流まま春こる宿ハうちけれおもおれて雪もわぬ冬れ臘月
川なみのいかしろやくされのさへ氷もあへぬ草の原
名も衣萩の葉も散れ旅の香濃ても冬よれさしあやれ
あふ名やハ言ををきれ乃流ら羅きをせんかうてもけさ秋心うる

いかにていかに秘をれなくとて枝さうしめぬのいかなる行
言て深うきえんやまてて言田舎たへとの葉に思ひそめし色
思ひ侘さてもまゆきれ文書れさそかつ梅に戯よかうらの行
うれしさひまそむまそてもみいつるみらん此世ひとつの思ひゆる錦
つう秋乃山より月のなよおて草の宿ハ独そうかつき
侘とあうて心もうらまめれたる侘しなのうちれも御
まつをたてしてこうし風にゆうあのうき世の涙にうられてそある
明ぬとて峯にうる白雲や茜さそへりもも浪にうつりく
あふさき此中に浦にも雪見る衣たゆまぬのなみなるらん
うるの葉にも我身をきえれの秋乃上まよ涙と共の古れ家の森枯

暁の石垣と月よとあてもいやちこの風情のまこと
とこの山下ゆく川のいまのやまこまつのあかせにはうとむ
うーとても分とこいはくよはくの海の彩の井の名も海へ
あめまさゆるひあったのこれ山の風の秋のあらを
人ふこしし川の流き潮よりみよこれるも秋やたこん
秋さひて苔もまさき住吉のわたりひあってこの葉も
家々の思ひや人へうるんいつもれの月へみるも
古へとみて池もみるみてはも苔の秋とわたこ
いま代を岩井はまよひとひをてよこ山けと思ひるこ
白ぬれ人へよひをりり夫の新とるるのこ

今夏のよろつへきへもあるこ秋のひとこれ苔のこと
ひとこのこのこのよひちあるよ庭つへひ月の新
秋人りこ見ありしまれ養よいつとみるる心あるん
喜秋の新も紅葉ふ時しもあれつまこれきれこ交へ
里まこまやまれこやめあん貧れこ乃吉こまれる
あこけきあれ秋の新月こあ西新もこひこ
いく秋もはきこと秋おりこ月こ雲川あひせあ薬れけを
同八月廿三日称合当歴　名古屋

楼西へはめこあれゆく山の沼よあるこ秋風こ

夕搭衣

秋風も夕やさむしくぬれんとてあぬぎすてし衣

深山霧

秋の葉のつれなき色に染まはの山ぞ夕霧のそら

霧中恋

あさましあまき袖ぬれ秋のやとりにもつゝまぬ心ひを

海辺恋

海人のすなる網にて浦風にうつろひもてゆく

同共日蒙座　夕草花

乃つまの屋夕露ぬれく咲風にまの秋の花深の秋

古寺月

おもかげせやひとり秋ぬれ秋風そ空

空山月

山里は乃木葉も散ぬ人ぬき秋のうら寂

雲間恋

大空のあめにまうたりとれ秋の月雲

寄石恋

引ぬ乃あく嶺ぬみ乃宮乃ゆよせる乃ぬ乃ぬ

雲の草恋

恋草つのきよ乃ぬまちやかつる秋のひとりあり

同日蒙座会　懐老年恋

菊の香ひろく四ひよ清あり老をせのてこ何こ[illegible]

彼勢人宮

袁まる梅や四方ととろ[illegible]の人ゑ[illegible]まあ[illegible]れ[illegible]

同比黄産　山梅

時雨とかうそ山梅は木葉もとこ[illegible]ふる山の清月

宮川宮

袁なと岩ゑとと山のもとの小い浪むりのう

寄月述恒

見てもまの人ゑく袖ぬ百姓や芋も[illegible]紀やうの上月

同九月十上月[illegible]及深更宮家[illegible]御[illegible]

をつくなと袁て今秋月いくもしかくあ

ちくめ下ゑは小清源殿東廟詠

黄産　月前行

嵐風いろうりをやいとあ人年のとせあを月新

月前松

月のもむむ松ゑ[illegible]根まの袁をのうえも秋ととひきう

同十月十六月黄産　山時雨

たいる山一村時るる袁にあとをとうるの木枯

江上月

星のひまれよる風く塩の烟まや秋まうにの名月

曉更衣

きのふけふのうき涙袖とかこちません

同十一月一日會宮山月

曉乃雲ふきはらふ松風よひとりみさめぬ山のこれ月

寺村雪

かつぎつゝ次郎山の末乃雪れうらよ一村みて喜ぶ水

宮芦雪

人ぢれぬ浦末芦乃うれよりいく秋の浪よりもまさん

同比不迴時日詠七十首之内共首入中

ぢ雪ふる末れあれ社宿とれ人のこゝもあなたこゝ

下もの雪拾ひもあへぬあ雪に仕ふこゝ

我宿れ山うきの梅乃匂ふ雪ふりの人のこゝを拾ふ人

嵐の羽風ふゝも匂ふわ新と社雪の末れ夕くれ

さゝ姫の柳乃ふゝいくうり末ふみうり乃浪も浪

待おしもふに山のこゝをいそうん手まつゝ末霧風

つゝそのゝうゝ山乃梅ふ雪ふふませて末風ふく

咲ふゝうり雪山ゝ社梅ふ山ゝ末ふゝ山ゝうゝひと

ふゝうゝ雪曉ゝ一ゝうゝ梅ふもいく秋ふの人ゝ咲ん

梅乃花ゝ末ふ人のこゝのとうにふく末のゝ咲

小山田乃苗代ふゝ雨ふゝうきまかふれ蛙ふくなり

〽あれたる池のなかみのけちよへし松の葉かくれに沈む白露

〽うれて行寒き日数に花すゝきもつりきてぬるゝ袖の露

〽まつふしもなれぬ宿りのきみしらぬ夜の旅ねに風もふきそへて

〽ゆふつくひ入おのゝ里にあれて初瀬の松の風ぞ涼しき

ふりさけ山さみだれ生しげ里人の衣ほしほすかさ山のなきまで

〽暁の夜半の影も月影よりもさえゆくかげも冷しきよの秋

夏ごろもやみのうつゝ秋風は雲にしむ一声の村雨の空

〽水無月の末の川なみまたの月影に置くれつゝ時ならぬかな

〽見るまゝも手折る川への草の白露も秋をかけたる色ぞ見ゆる

夜と秋とゆく末の露乃しげみの風は露けく人の袖ぞしほるゝ

〽秋きてあしたの露にそふ露や我衣手にぬるゝ色もみえん

〽まよふまゝ秋としもなく袖の露を思ひやらるゝ荻の上風

〽吹風も空にしられとや行末の音羽の山に秋は来にけり

〽秋はまて哀れし扇も手にならすなりつゝ涼風の音ぞかな

〽手にやなる御山下風に鳴る簾の音乃さそはれてとふ露かな

〽太ひ乃秋の孫覚やかへらん千代の里思ひの松風にそ思

〽山川乃岩間の波乃こゑやきえ夜をのこす月もやどり宿川

〽二見かた月さむ浪にむすふ雲間かなは秋の夜やあかすらん

〽とまる山よりきえたる秋風の身にしむ夜半を心なくかな

〽秋来ぬは霜分の菊も秋ふりてさもなき亥鳥の松一かな

立田姫が紅葉の衣きつるれは山風にて散る紅葉さへちる

秋のはしらる人はなけれとも散るもみちやまの山風

吹きてきぬ春の山の花も又時雨冬枯しき紅葉散る木葉に

大井川ゐせきくいつこもなしくて木葉おちぬ山おろしの風

やとりして一夜かりの宿もあまりて風のこほる寒さに蓮生月

かけの浦に冬のまさき姻さる見ゆれとも見えぬ白雪

雪深ゆきの吉野山やあれぬらん宿の梢に積るみゆきの

山人のかよふ道のみ見え吉野に奥も深き雪

芦鴨のさわく野沢の薄氷たゝまくほしき浪の上かな

あつきさへいはへの松乃いく世へて時雨も知らぬ家の[illegible]

都よりはるはると思ひし山のさくら花ちるらむ秋の月の影を

古へのゑ薫たにかよふあれ果てし虫の音も濃く茅か原

春霞たつのいつか山の桜花ちりのかゝる立田の川ら

立田山あり明の月に残る紫は明にも濃く思ひの外

こゝら荻をいくもえひしくれおもてとまりていく秋たい小紫の溺れ世

おもひきれ糸の寄りてもまさに寄るようにも聞かすやらうてきき

世中はとてもかくてもおなしこと思ひかへせは夢も跡

世にふるは人のつらさもうきことも思ひしらるゝ身の[illegible]

久かたの雲井の月は契りていつとはの姫もかゝる[illegible]

又同じ心をよめる

[illegible]

同廿七日　蒙座

[illegible]

題不知

[illegible]

同十月十日　[illegible]

[illegible]

建保五年三月　山花を　蒙座

[illegible]

[illegible]

同四月廿日　[illegible]　霸張時[illegible]

[illegible]

川色　[illegible]

[illegible]

[illegible]

今[illegible]

同廿五日　[illegible]

[illegible]

同六月二日　蒙座會　山春花

[illegible]

なしなへて花やさくらにさそはるゝ人まち風かぬ山のかけしも

水夜月

みちさえみなもとそうんとまつ池のまかすとても月の舎り

みをせくりせも華殿山のまたもうつしくつる月影

野旅風

むかしたかんたつ手枕とうつ宿とも野ゝ原に露秋風そ吹

百草の花かさ志けり杖風よその旅人の秋の色

同廿四日三合　夕風　當座

百草なやかんの末の夕風にほきまれる代の秋やゆらん

秋風もわきて深ぬ穂よりも夕日をうつろふしの

くれかゝるゆふけの草の露のむすほれて秋の初風

おりしもあれ入ぬの袖にそよきて松のはに秋風ぞ吹

野ゝ宿るまのをちこちにさそはれてなかむる秋の夕暮

暁月五首

草の葉の露のやどりにあかぬ夜の松のしたの月

くるさにさらの露とかこつも月をみるたのしみの露

寝覚まさるかたの月影を心なくもあかつきに

暁の露にかゝる雲の月

しのゝめの夜を鳴の声に秋の夜の月

同廿五日　當座　野亭廉

宮ちかき所々への茶屋乃秋風を庫の音ばかりこそ
行路霧雨
ぬれて行旅人の袖をもぬらすあめこそまりなりけん
ちの水色
思川岩間くれなゐ水の色ばかりこそ人そなのき
同七月一日俄日蝕人〻参詣して夫合よ
関路早梅
夜秋のけしきを梅の花ばかりこそ色あつき
野草露滋
いつまてうたゆきの山のもとひろん露よ消する草の
同八月十又日秋 今夜度申 於殿上人〻
詠ゐおて 当座
世をそこ〻あまひ〻ま立先も月を待ち春乃ひ嬉
さよ更て空も月のくもりなし月の体〻姫の村雲
あ〻あつ〻月の桂乃和歌八時毎世あす秋まさりける
同十月九日お仁和寺殿人〻三のつ〻うまつり
に当座時ち清方遠今日逗留也
清水せくかり四月西乃冬ゝれよりのこれもしぐれ山の色
嵐山時雨やちくかよりん紅葉も仰ぐ庭の和歌
同十六日 当座 寄合 冬 空月

山井のかけひ水ぬるまさるゆふの雨

朝落葉

吹ちらす山の風のはげしさに木の葉もよるとなる

夕残菊

ひのまの星光とそ人よ久しくれの菊八雖にいつろひぬらむ

同十七月　当座三合　浦千鳥

月新もたらしの海のさすらまのうら浦風吹

初雪

名所野辺の水乃雪ぬうへよりまさるなく初雪

寄年恋

雲さまのいさむ行いさやまさきにつぬるもの恋

同十八月当座三合　山亭草

秋さらぬ人ぬまさるみ山ちをみこうたの下草

海上霧

雖波さむまのうちにまてあれはさく夕波の色

旅松風

旅枕山ちぬくぬまさにきの方松の秋乃風

同十九月　当座三合　春雨

桂のさひさらの山乃名りをもみさりにまぬる

裏月

時雨鳴一村の狩人の袖のうつきそれよ

秋雨　　[illegible]

[illegible]

冬風

[illegible]

變恋

[illegible]

同廿二日　水鄉冬　　崇産

[illegible]

[illegible]

たゝまやあとゝん波のあさ雪にあをかくろへて[illegible]

同月探題詠の　崇産

久堅の雪とも雪とゝゆきとり秋風ふきぬ[illegible]

むさひあくるたゝひの水乃狂ふ[illegible]

同比當座三の合　朝千鳥

伊勢丸あまの釣舟の烟[illegible]清浦千鳥

夕川秀

夕日さゝとを紅山へ赤[illegible]れ川[illegible]谷の水川よ物[illegible]白雪

[illegible]炉火

山の紅葉ゆりくるる[illegible]

言外意

さてはいつの年の文まれかのきはてれば家もろこし
孫久意
詩れかとそもそもいとはかくさあるまあり身の派てそ
あまと
訣文群行事を思いてく
紀寺の聖をひろ丸長月よ派寺のをてへさて家れ
同十一月四日三の合　冬山雲
安路やそむひろの山乃岩ろ
冬野雪数
むさて持く家へられ
ろまれて霧よみるされ寺

国立公文書館
National Archives of Japan